

## 平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	環境マネジメントシステム推進事業(クリーンセンター)	所管	環境クリーン部 東部クリーンセンター管理課 Tel 2998-5300
-----	----------------------------	----	--

事業の目的 (何の為に 行うか)	環境マネジメントシステム14001の環境方針に基づき目的・目標を定め、環境保全を図り、環境負荷を軽減、循環型社会の構築を目指す。
------------------------	--

対象 (誰を、何を 対象としてい るか)	職員数(正職員・臨時職員)	対象とした数	248	人
		実際に 利用した数	248	人

活動の内容	(何を したか)	1 各グループが掲げた目的・目標を達成するため、環境マネジメント実施計画を作成する。 2 廃棄物の減量・リサイクルを積極的に推進することで循環型社会の構築を目指す。 3 大気汚染物質の抑制、電気、ガスの節約等を中心に進行管理する。 4 法規制値や自主規制値の順守項目を一覧表にし、もれなくチェックし、結果を評価する。 5 システムの構築状況を内部環境監査により、チェックする。 6 PDCAサイクルを繰り返すことにより、環境に負荷を与える主要な原因を継続的に改善していく。										
		活動実績	項目名	環境保全項目・環境負荷項目	35	単位	件	項目名	環境保全項目・環境負荷項目	32	単位	件

経費 (どれだけか かったか)	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	1,637	1,183	12,926	38.1

成果 (結果として どうなった か)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	目的・目標の達成率	達成できた目的・目標の項目数／設定した目的・目標の項目数	100	91.4	91.4
			単位 %	単位 %	単位 %

今後の 方向性 (所管の意 見)	総合 評価	* 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他 [ ]				
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止				
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了				

今後の 方向性 (二次評価の 意見)	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ * 無し⇒終了					
	総合 評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他 [ ] 終了				
		予算	現状どおり 増額 減額 終了			

# 平成 20 年度事務事業評価表(一般用)

①事務事業名		担当 部課	部課コード	050600	TEL	2998-5300
事業コード	環境マネジメントシステム推進事業(クリーンセンター)					
050601	環境マネジメントシステム推進事業(クリーンセンター)					
開始年度		平成 14 年度	—	終了年度	平成 年度	

②事業の概要	事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託+附加			根拠法令			
	分野別計画・指針	環境基本計画・一般廃棄物処理基本計画						
	関連・類似事業							
	総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	1節 環境との共生	中柱	3 環境施策への参加と協働の推進	小柱

行政改革大綱における行動計画への位置づけ	コード	2121	経営情報の収集・分析	コード	3261	事務事業見直しの推進	コード	
事業開始の背景	所沢市では、平成11年度より環境マネジメントシステム(EMS)を構築・運用していたが、地球環境問題の中核を占める「廃棄物の発生」・「有害物質の発生」などの環境側面を扱うクリーンセンターも独自のEMSを構築し、その姿勢(平成14年9月25日ISO14001認証取得、平成20年4月1日自己宣言に移行)を内外に示すことで、市全体の「ごみの減量化」「リサイクルの推進」により「環境負荷の軽減」が促進されることが期待される。							

③事業の内容	目的(何のために、具体的に)	環境マネジメントシステム14001の環境方針に基づき目的・目標を定め、環境保全を図り、環境負荷を軽減、循環型社会の構築を目指す。							
	対象(誰を、何を対象としているのか)	利用数の考え方	西部・東部クリーンセンター・東部クリーンセンター収集事務所職員						
	職員数(正職員・臨時職員)	対象数	単位	平成 18 年度	251	人	平成 19 年度	248	人
	事業の具体的な内容及び実施方法	1 各グループが掲げた目的・目標を達成するため、環境マネジメント実施計画を作成する。 2 廃棄物の減量・リサイクルを積極的に推進することで循環型社会の構築を目指す。 3 大気汚染物質の抑制、電気、ガスの節約等を中心に進行管理する。 4 法規制値や自主規制値の順守項目を一覧表にし、もれなくチェックし、結果を評価する。 5 システムの構築状況を内部環境監査により、チェックする。 6 PDCAサイクルを繰り返すことにより、環境に負荷を与える主要な原因を継続的に改善していく。							

④前年評価と改善点	平成19年度事務事業評価結果(平成20年度の方向性)	≪ 最終評価 <input type="checkbox"/> 一次評価 <input type="checkbox"/> 二次評価 ≫	
	総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ( ) )	
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了	
平成19年度中に改善した点			
平成19年度から自己監査と内部監査を融合し、内部監査として効率化、監査の充実が図られた。また溶融飛灰の山元還元により埋立から再資源化を図った。実施計画の項目数も整理し40項目から35項目に整理、「ごみの発生・排出抑制」として見学対応の見直しを図られた。			

⑤経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		1,019	1,637	494
	決算(見込み含む)		1,405	1,183	
	(嘱託職員)(臨時職員)	( 人 )	( 0.40 人 )	( 人 )	( 0.20 人 )
	正規職員人件費	1.30 人	11,960	1.25 人	11,743
	公債費				
	事業費合計		13,365	12,926	
	財源内訳	一般財源	13,365	12,926	494
		国・県支出金			
		受益者負担金			
	市債				
	その他				
	市民一人当たり(単位:円)		39.6	38.1	
	利用数一単位あたり(単位:円)		53,247.0	52,119.0	

※「財源内訳」について平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。

⑥指標	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H20見込み	将来目標
	環境保全項目・環境負荷項目	設定した目的・目標の項目数	件	40	35	29	29
	環境保全項目・環境負荷項目	達成できた目的・目標の項目数	件	35	32		
	成果分析	目的・目標の達成率	達成できた目的・目標の項目数/設定した目的・目標の項目数	%	目標値 100 実績 87.5	100 91.4	
			%	達成率 87.5	91.4		実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2   1

⑦一次評価	評価項目	現状評価	評価項目	現状評価
	対象設定	事業の対象を見直す必要性 <input type="checkbox"/> 対象を絞る <input type="checkbox"/> 対象を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体 所沢市
	他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合 <input type="checkbox"/> 統合する <input checked="" type="checkbox"/> 連携する <input type="checkbox"/> 類似事業 <input type="checkbox"/> 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	明らかとなった課題	温室効果ガス排出量の抑制、市民にわかりやすい公表、施設の緑地保全、関係各課と連携した実効性のある実施計画の作成、東西クリーンセンターの目的目標の整合性を図ること。外部コミュニケーションの拡充、環境教育の充実、事故防止、災害の未然防止などISO活動を更に進めていくこと。		
評価理由	今期目標項目(何を)	達成水準(どこまで)	時期(いつまで)	
	ISO14001クリーンセンター環境マネジメントシステムの適正な運用管理	定期的にチェックし、進行管理を行う		随時
平成21年度における事業の方向性				
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の継続 ⇒ ( <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ( ) )			
予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了			
評価理由				
環境負荷の多い廃棄物処理施設を管理運営していく上で、環境マネジメントシステム(EMS)の仕組みを活用することは有効であり、仕組みを活用した業務改善も図られ成果は上がっている。今後も本来業務自体を積極的に目的・目標に取り込み業務の改善、効率化を進めていく。				
評価日	平成20年5月8日	記入者職氏名	東部クリーンセンター管理課長 加藤 治 雄	

⑧二次評価	一次評価を受けて	平成21年度における事業の方向性						
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 終了						
	予算	<input type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了						
	評価理由	評価日						
⑨個別計画における方向性	次年度用事前評価	部内優先順位… 位	非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価	<input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
		見込まれる貢献度	総合計画上位目標	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		評価理由	市長マニフェスト	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
		評価日						

⑨個別計画における方向性	◎環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ… 有り	計画コード	424
	実施の体系	4-2参加と協働の推進	実施の方向	4-2環境マネジメントシステムの推進
	◎次世代育成支援行動計画	本事業の左記計画における位置づけ… 無し	計画コード	
	基本目標			
	主要課題			
	施策の方向			